

1 主 題 名

「よいとおもうことを すすんで」 【A 善悪の判断、自律、自由と責任】

2 教 材 名

「ダメ！」(教育出版)

3 主 題 と 教 材 に つ い て

プリンが大好きな“りすくん”であったが、ある日のおやつ時間に「りすくんは食べるのが遅いから手伝ってあげるよ」と言って、“くまくん”にプリンを食べられてしまう。心の中では「ダメ！」と思っけていても、自分より体も声も大きい“くまくん”に対して、怖くて何も言えず、そればかりか、おもちゃもブランコもいつも“くまくん”に譲っている“りすくん”なのであった。普段の学級の様子などからも、「いやだなあ」「やめてほしいなあ」というマイナスの事柄を相手に伝えることは、相手との関係性などから思わず躊躇してしまう場面が見られるが、正直な気持ちを表現することで分かる“りすくん”気持ちの変化や、“くまくん”の行動の変化を多面的・多角的に捉えることで、どんな状況でも正しいと思う行動をすすんで行うことの大切さについて考えを深め、今後の生活での実践意欲を高めることができるのではないかと考える。本時では、自分が正しいと思うことをすすんで行うことの難しさに気付いたうえで、勇気をもって正しいと信じる行動をとることによって、自分や相手にどのような変化が生じるのかを考えることとする。

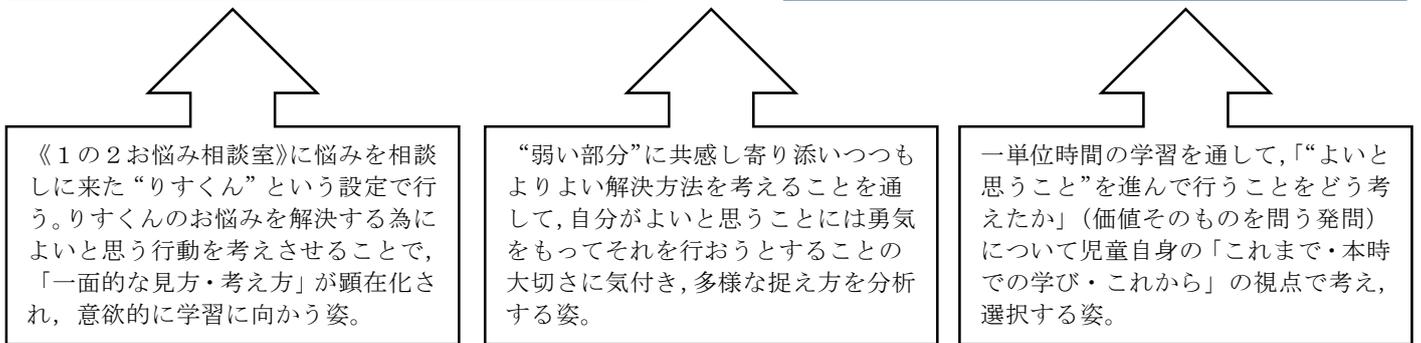
4 本 時 の ね ら い

1年生の児童でも善悪を判断する力は身に付けてきているが、相手と自分の立場や、その時々都合などによって、行動を変えてしまう実態がある。そのために、本教材の道徳的問題である「強い相手に対して、自分の思いをきちんと伝えられなかった“りすくん”はどうすべきか」を議論させることで、多面的・多角的に考えられるようにする。このように、問題解決的に考え、よりよい解決策を考察することを通して、よいと思ったことは勇気をもって進んで行おうとする意欲や態度を育てることをねらいとする。

5 本 時 に お い て 育 み た い 自 律 性 と 、 働 か せ る 「 見 方 ・ 考 え 方 」

① 教材への興味関心を高めたり、問題意識をもったりする姿

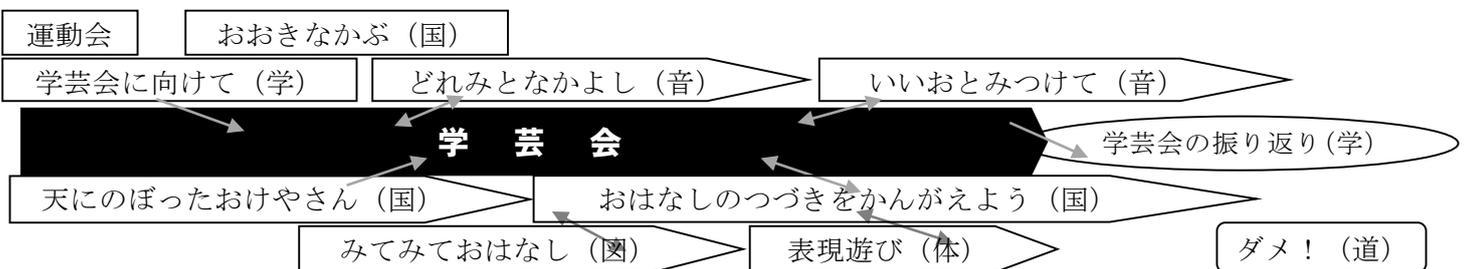
② 物事を多面的・多角的に考え、道徳的諸価値の理解を深める姿



①は、「一面的な見方・考え方」を働かせる段階で目指す姿である。また、ここで抱いた興味・関心・問題意識は、②の姿へとつながっていく。

②は、主として「多面的な見方・考え方」「多角的な見方・考え方」を目指す姿である。これまで触れてきた道徳的価値の濃淡に差がある児童が、教材(読み物等)という共通の疑似体験を通して、多様な価値観に触れながら、物事を多面的・多角的に考え、道徳的価値についての理解を深めていく。

6 学 級 ・ 学 年 経 営 年 間 プ ロ グ ラ ム と の か か わ り



7 本時について

(1) 本時のねらい

「強い相手に対して、自分の思いをきちんと伝えられなかった“りすくん”はどうするべきか」を議論し、よりよい解決策を考察することを通して、よいと思ったことは勇気をもって進んで行おうとする実践意欲を高める。

(2) 一貫した主体的学びを「つなぐ」ために（個の内面化）

「多面的な見方・考え方」「多角的な見方・考え方」のうち、特に「多角的な見方・考え方」が高まった状態、すなわち何らかの選択・判断をしようとする「見方・考え方」が高まっている状況において、実践意欲を喚起する発問（「これからの自分の生活に生かしていけそうなことはありますか」）をし、個の内面化へとつなげる。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導（▲）
<p>1 これまで「嫌だな、やめてほしいな」と思った場面について自分の経験を基に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に嫌な言葉を言われたとき ・自分が使っているおもちゃを取られたとき ・自分が考えたことを真似されたとき ・馬鹿にされたり、からかわれたりしたとき <p>2 「ダメ！」の読み聞かせを聞く。P.56～P.57</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩んでいる“りすくん”にアドバイスをしあける。 <p>【ちゃんと言う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言わないと伝わらないから言った方がいいよ。 ・くまさんは悪い気持ちはないから言っても大丈夫。 ・言わなかったら何も変わらないかもしれない。 ・ちゃんと言わないといつまでもうじうじしちゃうよ。 <p>【りすくんの怖い気持ちに寄り添う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が怖かったら言えないかもしれない。 ・言うのは勇気があるし、ちょっと怖い。 <p>3 「ダメ！」の読み聞かせを聞く。P.58～59（3行目まで）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“りすくん”の行動について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・勇気を出してちゃんと伝えてすごいと思った。 ・きつと怖い気持ちもあったと思うけど、頑張ってたんだと思う。 ・まずは自分の気持ちを相手に伝えることが大事。 ・これから言いたいことを言い合える友達になっていけるかもしれないね。 <p>4 「ダメ！」の読み聞かせを聞く。P.60～P.61</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“りすくん”の行動の結果について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんと自分の気持ちを伝えることで、前よりもっと仲良しになれている気がするよ！ ・二人の会話が楽しそうになっているね。 ・思ったことを言い合えると、もっといい友達になっていけそうだね。 ・自分もこれからは勇気を出して言っていきたいな。 <p>5 本時の振り返りを行う。</p> <p>【これまで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言いたいことを怖くて言えないことがあった。 <p>【きょう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいと思うことについて勇気をもって行動することで、前よりもっといい関係を築けることに気付いた。 <p>【これから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言いにくいことでも頑張って伝えていきたいと思う。 ・いいと思うことは勇気を出して言いたいと思った。 	<p>【個の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 経験的思考を働かせ、これまで「嫌だな、やめてほしいな」と思ったことがないか考えさせる。 <p>【見方・考え方を働かせる】</p> <p>《1の2お悩み相談室》に悩みを相談しに来た“りすくん”という設定で行う。りすくんのお悩みを解決する為によりよいと思う行動を考えさせることで、「一面的な見方・考え方」が顕在化される。一方で、“そうしたら良いことは分かっているが、怖くて（勇気が出せなくて）できない”りすくんの弱い部分にも目を向け、共感的に交流を行うことで、「多面的な見方・考え方」を高めていくことへと繋げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「りすくんはどうすればいいですか」 <input type="checkbox"/> 「みんなはいつでも誰にでも言いたいことが言えるんだね。強いね。」 <p>【見方・考え方を高める】</p> <p>誰もがもっている“弱い部分”に寄り添いつつ、よりよい解決方法を考えることを通して、自分がよいと思うことには勇気をもってそれを行おうとするものの大切さに気づき、多様な考え方に触れることで「多角的な見方・考え方」を高めていくことができるようにする。以下、必要に応じて児童に問い返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「ちゃんと言えたりすくんをどう思いますか」 <input type="checkbox"/> 「はっきり言うことで逆に相手を傷つけてしまうことはないのかな」 <input type="checkbox"/> 「怖いなら無理してまで言うことはないんじゃないですか」 <input type="checkbox"/> 「無理してまで言うことで何かいいことがあるんですか」 <input type="checkbox"/> 「りすくんがちゃんと言えたことで、これから何か変わるのかな」 <p>【個の内面化】</p> <p>“りすくん”の行動の結果について考える活動を通して、自分の生活と照らし合わせて交流し、今後の自身の生き方に繋げていけるようにする。I</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「これからの自分の生活に生かしていけそうなことはありましたか」（実践意欲を喚起する発問） <p>・本時で考えたことについて3つの視点でふりかえり、WSに記述する。</p>	<p>【発言・ワークシート】</p> <p>▲自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の発言の中から一番納得いくものを選択するよう促したり、組み合わせで考えるよう伝えたりする。</p>

